

学習指導案形式例（道徳科）

第○学年○組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 主題名 ○○○○○○○○○○ B () 「相互理解・寛容」
教材名 「 」(出典)

- ・「主題名」本時で考えさせたいことを一言で表現し記載します。隣に内容項目を示します。
- ・「教材名」は、扱う教材の題名です。
- ・出典は、教科書以外のものを扱うときに記載します。

道徳科の「主題」とは、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのような指導構想をもっているか、指導のまとまりを示すものです。できるだけ端的に表したものを記述します。

そのため、明確なねらいをもって年間指導計画に主題を示すことが大切です。学習指導案の「主題名」には、原則として、年間指導計画における主題名を記述します。(学習指導要領解説 (小) p 73,74,80 (中) p 71,78)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする内容項目について (ねらいとする価値について)

- ・まず、学習指導要領で示す内容項目の概要を示します。
- ・それをふまえて授業者が捉える内容項目の意義を記述します。
- ・そのことについて、日頃感じている児童生徒の実態を述べ、指導したいことや考えさせたいことの要点を記述します。

記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けて記述します。抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的に積極的な教材の生かし方を記述するようにします。(学習指導要領解説 (小) p 80 (中) p 78,79)

(2) 児童（生徒）の実態について (令和○年 ○月 ○日実施)

実態調査の問題及び回答	考 察
①	.
②	

分析

- ・児童生徒の発達段階を踏まえ、道徳的価値に根差した問題（ねらいとする道徳的価値について、どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのか）を具体的に把握し、記述します。
- ・調査の分析は、児童生徒の実態把握から、道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを記述します。

(3) 教材について

教材のあらすじを簡潔に記述します。教材には、伝記、実話、物語、詩等、多様な形式のものがああり、それらの特質を捉えて記述します。教材に対する感動を大事にする展開や道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切にした展開等、教材のどの場面や発言等を取り上げて、ねらいに迫るのかを記述します。

(学習指導要領解説 (小) p83 (中) p82)

(4) 指導観

以下の○点を工夫して指導する。

①

○指導観について

- ・どのように授業を組み立て、何のためにどんな指導をしていくか具体的な方策を示します。

②

(5) 校内研究との関わりから

校内研究テーマ 『 』

①

②

校内研究で自校が研究するテーマと道徳の関連が図られる場合は、どのように校内研究の取組を活かすのか書きましょう。

3 授業構想図 (単元構成図)

年間指導計画や別葉を基に、本時の授業と前後の道徳科の授業との関連や 他の教育との関連について記述する。図等を用いる場合もある。(学習指導要領解説 (小) p89,90 (中) p88,89)

4 本時の指導 (○／○)

(1) ねらい

○ねらいについて

「～しようとする道徳的心情を育てる。」「～しようとする道徳的判断力を育てる。」

「～しようとする道徳的实践意欲を育てる。」「～しようとする道徳的態度を育てる。」

※道徳性の諸様相 (道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度) のどこに焦点を当てて授業をするのかを記述します。

「～について考えることを通して、～気づき (～を理解し)、～を育てる。」

道徳性の諸様相 (道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度) は一つ一つが独立しているものではなく、関わり合っています。必ず一つの様相とは限らず、複数の様相を育てることも考えられます。

(2) 展開

過程・時配 (学習形態)	学習活動・主な発問と児童（生徒）の反応	○指導上の留意点（UDの視点も含む） ☆評価（方法） ◎個別の支援	資料
導入 ○分 展開 ○分 終末 ○分	1 ○ . . 2 ○ . . 3 ○ . . 4 ○ . . 5 ○ . .	○指導上の留意点（UDの視点も含む） ☆評価（方法） ◎個別の支援 ○導入の工夫について 本時の主題に関わる問題意識を持たせます。 または、教材の内容に興味や関心を持たせます。 ○課題をつかむ工夫について 課題がある場合は、本時の課題を板書します。主発問でもよいです。 ○展開の工夫について「発問の工夫」「意見交換の工夫」 ☆発問 ・経験を問う ・教材の登場人物の気持ちを問う ・自我関与 自分だったらを問う ・何が問題なのかを問う ・解決策を問う など ☆対話 ・自分で考える（自己対話） ・多面的・多角的に考える意見交流（他者対話） ○指導上の留意点について 次の内容を示すとよいでしょう。 【指導の手立て】⇒・資料提示・板書・ワークシート・ICTの活用・学習形態の工夫 【支援】⇒何をしたらよいか分からない子・理解が不足している子 ※個別の対応・方策を示します。 ○終末の工夫について「振り返りの工夫」 「～について考える。」「～について振り返る。」など焦点を絞るとよいです。 また、導入と終末での考えの変容を書かせると評価に活用できます。	資料 教師目線で記述します。

(3) 板書計画

【評価】・授業の最後に、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る視点を記述します。

- ・「できた」「できない」と評価するものではないので、語尾は「～することができたか」ではなく、「～しようとしていたか」や「～に気付いていたか」等の表現にすると良いでしょう。

例) 「 」について、～を通して、～しようとしていたか。
(道徳的価値) (指導の工夫) に気付いていたか。等

思考の流れや順序を示すような順接的な板書ではなく、違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫や、中心部分を浮き立たせる工夫などを意識して記述する。

(学習指導要領解説 (小) p85 (中) p85)